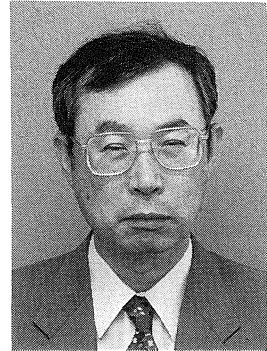


文化庁長官就任挨拶



文化庁長官 佐々木正峰

この度、6月15日付けで文化庁長官を拝命いたしました。

21世紀を目前に控えた今日、社会は大きな変革の時代の中にあります。とりわけ、科学技術の急速な発展は、社会経済のあり方も急激に変えようとしています。その一方、物の豊かさよりも、心の豊かさを求める傾向も強くなっています。

来るべき世紀においても我が国が発展していくためには、創造的で活力ある社会を形成するとともに、国民一人ひとりが真にゆとりと潤いの実感できる生活を実現していくことが必要ではないでしょうか。

文化庁では、平成10年3月に「文化立国の実現に向けて」という副題をつけた「文化振興マスタープラン」を作成しました。このマスタープランをもとに、心豊かな活力ある社会の実現に向けて、引き続き様々な施策を推進していきたいと考えています。

来年1月には中央省庁等の再編が行われますが、文化庁においては、文化行政機能の充実や国際文化交流の推進を図るため必要な組織編成を行うこととしています。また、今年の著作権法100周年に続き、本年は文化財保護法が50周年を迎えるなど、文化行政の歴史的にも節目にあるものと認識しています。

このような中であって、文化行政における国や地方公共団体の役割はどうあるべきか、

という点について、不断に検討していくことが重要です。このため、我が国に適した文化行政のあり方について関係者との対話も重ねながら、文化立国をめざしたよりよい政策の形成に努めてまいりたいと考えています。

皆様方には文化行政の重要性についてますますのご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。就任の挨拶とさせていただきます。

